

大野 力と技の金



柔道男子73kg級決勝、一本を奪う大野将平(右、時事)

松本は銅連覇逃す



柔道

柔道は8日、男女2階終了した男女計6階級を級が行われ、男子73kg級を通じて今大会日本勢初の

大野将平(旭化成)が金メダルを獲得しました。松本選手は全体的に安定感がないことが気になりました。それは筋力がないためです。準決勝では背負い投げで一本負けしましたが、筋力があればそう簡単に投げられることはありません。

日本男子の金は2大会初の大逆転の金メダルを逃す。女子57kg級の松本薫(ベネシード)は日本女子4人目の連覇を逃し、銅メダルでした。大野は準決勝でドイツ・バンティヘルト(ベルク・バンティヘルト)に一本負けし、3位決定戦で連珍玲(台湾)から終盤に有効を奪って勝ちました。ラファエラ・シルバ(ブラジル)が優勝し、全競技を通じ開催国

多彩な攻め使いこなす

正木照夫の 鉄人の目



大野選手は内容も金メダルと云っていいでしょう。準決勝、決勝と一本勝ちで決めました。試合後、「柔道の素晴らしさ、強さ、美しさを伝えられたと思う」と話したようです。

大野選手は筋力があり、体幹が強い。典型的なパワー柔道のスタイルですが、技(わざ)師でもあります。手技、腰技、足技、寝技を使いこなします。この二つを兼ね備えた選手は日本に珍しい。準決勝のバンティヘルト選手(ベルギー)にはバ投げで一本勝ちしましたが、内股、大外刈りなども繰り返しました。力だけでなく、技もあると見せつけたと思います。

ゼロから 再び頂点

【リオデジャネイロ 時事】金メダルを獲得した大野将平(24)。その姿に観客席の兄哲也さん(26)は涙を浮かべました。「苦しい時期を乗り越えた道のりを思うと込み上げてきた」。天国から地獄。2013年の世界選手権を制覇した大野に、称賛はありませんでした。天理大柔道部の暴力問題が明らかになり、主

「折れなかった気持ち」と話しました。「最強かつ最高。子どもに憧れられる存在になるようもっと成長したい」。晴れやかに語りました。